

会 誌

第 51 号

1. 特別支援学校における地域調査（高校地理A・中学地理・総合的な学習の時間）の取り組み
～札幌市西区山の手地区の教材化～
……………北海道札幌清田高等学校 岡 積 義 雄…………… 1

2. 教育再生会議が「長期休暇の分散」提言
……………横 平 弘…………… 8

3. 新学習指導要領「地理探求」に向けての授業例～「1日観光ガイド」プラン
……………藤女子中学校・高等学校 非常勤講師 大 久 保 雅 弘 …………… 12

2018年5月

札 幌 地 理 サ ー ク ル

特別支援学校における地域調査（高校地理 A・中学地理・総合的な学習の時間）の取組み

～札幌市西区山の手地区の教材化～

北海道札幌清田高等学校 岡積 義雄¹

※本稿は、札幌地理サークル第 397 回例会巡検「水上通りを巡る」（2009）の際に調査・収集した資料を教材化し、山の手養護学校中学部と高等部での授業実践を基に提言するものである。

1. はじめに

札幌市立山の手養護学校に勤務していた頃、西区山の手地区の歴史を調べてみると、「山の手」という表記の記録が少ないことに気付いた。隣接する琴似地区の屯田兵を説明する際に山の手地区を含んでしまっており、「山の手」という地区の認識がなされていない時代もあったと考えられる。さらに、山の手養護学校開校 50 周年記念誌にかつて校地内に「のぞみの池」（資料②）という水場の写真が残されていた。人工的なものではないことは、説明している文章中の「流れ込んできている」という表現から推測できた。別の古い文集には、琴似小学校や琴似中学校に通っていた子どもたちが登下校中に小川で遊んだという記述があり、「のぞみの池」から「小川」に歴史的・地形的背景があるのかを調べてみたことから、「山の手」地区が琴似地区の屯田兵の歴史に紛れ込んでしまったことや、琴似発寒川の扇状地にあたる地形をどのように利用していたのか、等の変遷を記録しておく必要性を感じた。

山の手養護学校は特別支援学校で、主に病弱虚弱児童生徒を教育の対象としている。そのため、知的な遅れはそれほどでもなく病気や治療のため、学習空白が多くなっている子どもたちが多く在籍している。病気の影響や感染症の危険性から、屋外での活動がままならないことが多くあり、校外における実体験や実物に触れる機会も制限される。このような子どもたちに地理分野での「巡検」や「地域学習」をどのように実践するかについても、この稿で検証したいと考える。

2. 山の手地区の変遷

（1）古い地形図から

このあたりに屯田兵が入植したのは明治 8 年ごろとされている。屯田兵が入る以前は原野・荒地だったが、屯田兵が入植後は射撃訓練場として使われた。明治 37 年に屯田兵の兵役が解除された際に、給与地として山の手地区の土地の権利が分け与えられた。（64 件、64 名）

現在の札幌西高校付近で水田が開始され、この付近は新田と呼ばれた。“山の手”という地名はこのあたりを指しており、西山手、東山手と表記されていた。特に東山手はかつて屯田兵が十二軒入植したため、しばらく十二軒という地名が使われた。地形図（1/2.5 万）で確認すると、大正 7 年、昭和 5 年、昭和 12 年、昭和 23 年まで「十二軒」という地名が残っており、昭和 28 年の地形図から「十二軒」は「宮の森」に代わり、二十四軒、八軒という地名が掲載されている。これは昭和 18 年に東山手の一部で宮様スキー大会が開催されたのをきっかけに「宮ノ森」と表記されるようになった。

¹ 元札幌市立山の手養護学校勤務（2007.4～2011.3、2014.4～2017.3）

（２）「のぞみの池」の探索

前述した「のぞみの池」という名称は山の手養護学校の玄関前に小さな石碑に示されている。児童・生徒は、今は駐車場に面したところに池があるとは思ってもよらない。これはどういうことか調べてみるが、どうにもわからず、困惑していたところに、「山の手町づくりセンター」の所長さんから「山の手」の歴史を調べている方がいる」との情報を得て訪ねて行った。山の手養護学校の近くにお住まいの郷土史家相沢季男²氏は「のぞみの池」の謎をつぎのように説明してくれた。

『昔から長屋甫さんの家の前の庭から常に湧水がコンコンと流れ出していたのは、確か昭和 33～34 年頃の発寒川の築堤工事が始まる前までであったと思う。その湧水が約 100m 流れた所に大きな凹みがあり、そこが一面沼みたいになった所にヨシが生えて、そこから更に流れて齋藤万蔵さんの庭に至り、立派な日本庭園とリンゴ園の中を通過して三浦恵蔵さんの所（現在の西病院の角）から 30～40m 先で山の手通りを横切り河村金三郎さんの水田に注いでいたのである。昭和 32 年を最後に水田も無くなったが、それまで河村さんの水田のための水利権であった。しかし、これも水田が消えると共に、川村市場となり、後の大丸市場となったのである。』（「山の手のおいたち」より）

この話を地図に反映させてみると、山の手養護学校前の「のぞみの池」はこの長屋さんからの湧水が溜まったものと推測できる。



資料①

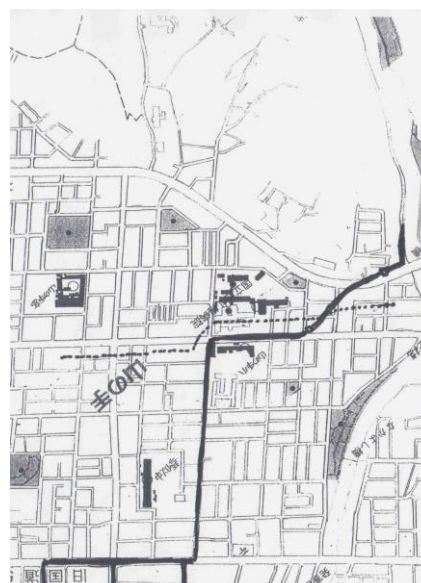


資料②「のぞみの池」

山の手養護学校創立 50 周年記念誌より

（３）防火用水路の設置

昭和 16 年頃、琴似地区の防火のために用水路が必要となり、発寒川の崖下を蛇籠で仕切り、水の取り入れ口の枡を作り、それから径が 60 cm 位のコンクリート製の管を並べて埋め、水路を作った。取り入れ口から上館さんの家の前（山の手 7 条 8 丁目）まで約 100m 位、斜めにコンクリート管を土中に埋め、そこに一旦マンホールを作り、進路を変えて東に今の山の手 7 条 7 丁目の 1、東南角まで原野の中をまっすぐコンクリート管でつないで埋めた。そこからは明渠で山の手通りを南下して、国立療養所（現北海道医療センター）の南の角を曲がり、現在の水上通りを通過して国道に達し、そこで琴似の裏通り（川添通り）、本通り（琴似栄通り）、本通りと二十四軒の境の通り（都通り）の 3 本に分かれて八軒方面へ流れて行った。



資料③ 相沢季男氏作図

² 札幌市西区山の手で誕生以来、生活されており、80 年以上前の山の手を知っていて、著書「山の手のおいたち」を 2010 年に自費出版されている。

この明渠の川でドジョウやカジカなどを採って遊んだり、船を浮かべたり、水遊びをしたりした思い出が地元の方々には残っている。「水上通り」という名称もこの明渠ができてからついたものだと推測できる。(資料③)

3. 授業実践 ～水上通りを巡る～

(1) 導入・ICTの活用

インターネットで地図を検索し、立体化する(3D)機能を使うと、病気の影響や感染症の恐れで外での巡検や調査が困難な生徒も模擬体験として地域調査に触れることができる。

生徒に地図の立体化する(3D)機能の使用方を説明しながら、学校前にある「のぞみの池」の写真を見せる。「なぜ、学校前に池があったのか」という疑問を感じさせ、取り組みに臨む意欲とする。

(2) 展開・ICTの活用

教師が操作する立体化(3D)した画面を教室前の大きなスクリーンに写し、画面を見ながら巡検を行う。ポイントごとに教師からの「質問」と生徒の「予想・協議」を行う。

①山の手養護学校の教室から見える三角山と齋藤果樹園

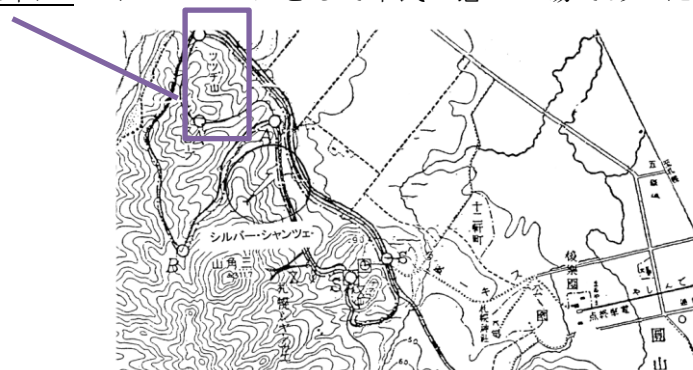


資料④ 国土地理院「地理院地図」より

* 三角山から北海道医療センター背後へ連なる山並みは、かつて“つつじ山”と呼ばれていた。

しかし、実際は“つつじ”ではなく“うつぎ”が多かった。

* “つつじ山”スキースロープとして市民の憩いの場であった。



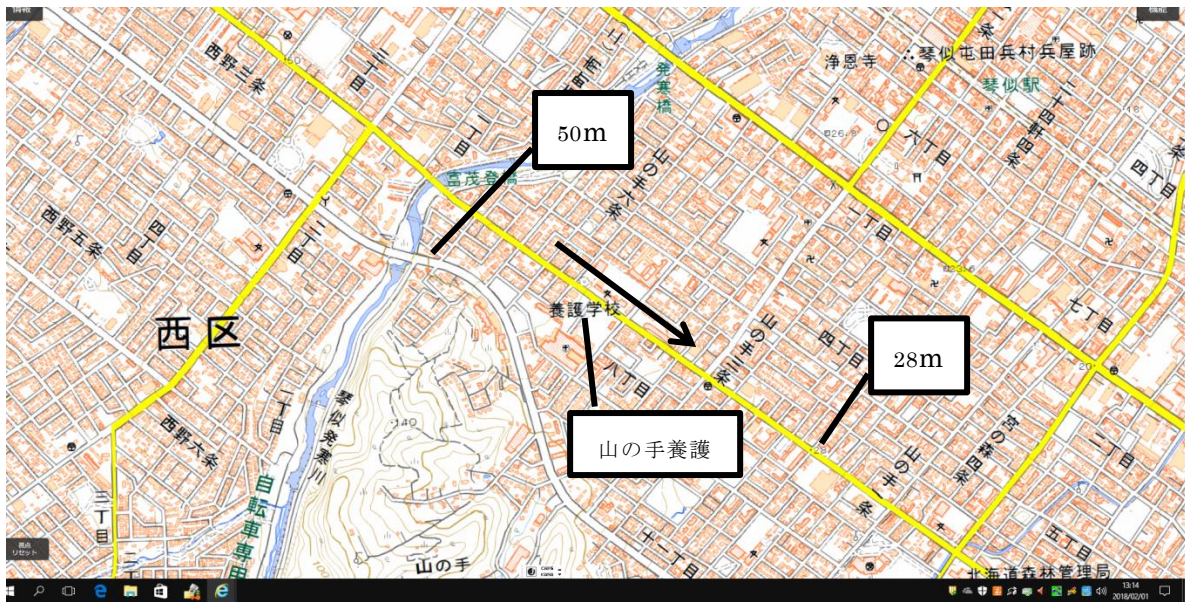
資料⑤

* “つつじ山”には内務省の弊獣地があった。

②山の手養護学校前にある「のぞみの池」跡の碑(資料①)

③北海道医療センター正門前、山の手小学校に沿って防火用水路の明渠があった。

* どの方向に流れるか⇒琴似発寒川扇状地のため、川から周囲へ下がっている。(資料⑥)



資料⑥ 国土地理院「地理院地図」より

④看護学校駐車場にも「のぞみの池」のような「湿地」が防火用水路とは別に自然と湧いていた。 資料⑦



資料⑦ 国土地理院「地理院地図」より

* 大丸市場（現在のラルズ付近）のあたりにも池が発生していて、水田が開発された。水利権を得たのが河村金三郎氏である。

* 西区で最初に水田が開かれたのが札幌西高校付近であり、篠路に開拓に入っていた早山清太郎が始めた。

⑤太田病院（資料⑧）は昭和１８年に開院した。その当時、周囲には野菜・りんご・ぶどう・いちごが栽培されていた。また、毛皮用の養狐場が１０軒あった。

⑥水上通りの道路維持について、昭和5年頃から国立西札幌病院（現北海道医療センター）の水は井戸水、ボイラーは石炭であった、石炭の燃えカスは水上通りの凸凹を埋めて平らにならすための材料として利用された。



資料⑧

⑦山の手5条1丁目からの「水上通り」の語源として「防火用水路」の存在がある。

＊地形図で確認： どこから引いているか⇒発寒川の現在の「山の手橋」付近から取水
どこを通っているか⇒長屋さん（本家）山の手7条8丁目から山の手通り
まで「暗渠」、山の手通りから「明渠」となっている。
どこへ流れているか⇒水上通りから先は3本に分かれている。
いつまであったのか⇒昭和16年完成、昭和41年まで存在していた。
水上通りの名残⇒電柱の標識に「北電水上線」という名称が残っている。（資料⑨）

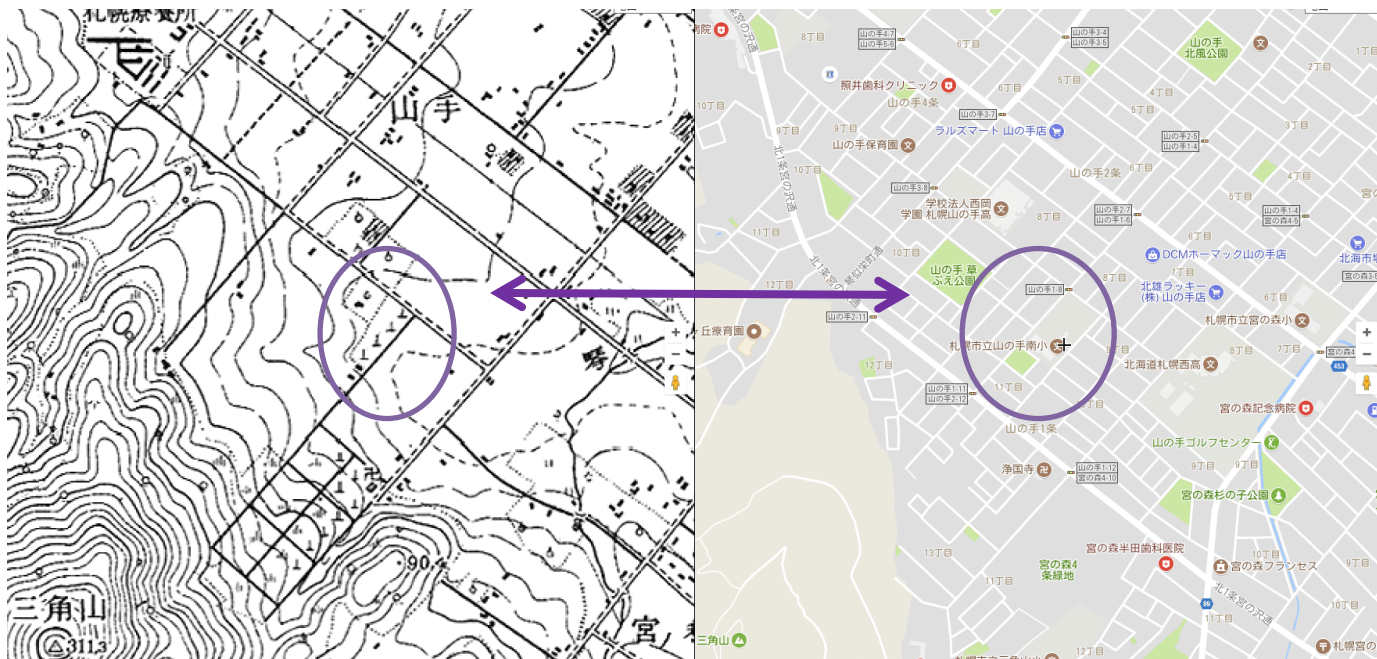


資料⑨

⑧琴似中学校・山の手図書館付近は、かつて屯田兵の宿舎があった場所。

＊学校の立地には空いている土地があることが前提条件。（資料⑩）

例) 山の手南小学校…火葬場・墓地の跡地（地形図）学校に怪談話があるのは因果関係がある。



時系列地形図閲覧サイト「今昔マップ on the web」 埼玉大学教育学部 谷 謙二（人文地理学研究室）より
（資料⑩）

⑨琴似交番は明治 30 年以來、同じ場所に存在している。建物は新築されている。(資料⑪⑫)

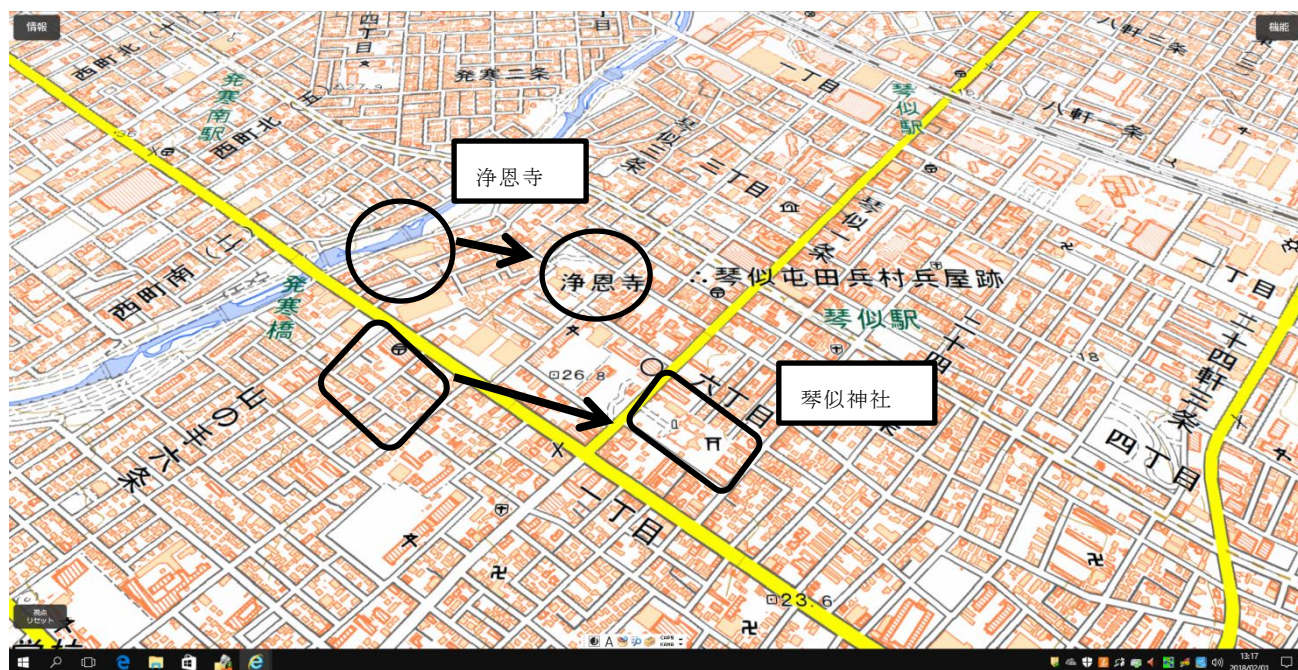


資料⑪



資料⑫

⑩明治 30 年当時の地主である齋藤氏が土地を寄贈して最初の琴似神社があった。(資料⑬)



資料⑬ 国土地理院「地理院地図」より

⑪浄恩寺もかつて国道 5 号線沿いにあったが、昭和 43 年に現在の場所に移転した。(地形図・資料⑬、写真・資料⑭)

平成元年に教化の一環としてフォーク歌手の「さだまさし」がコンサートを行った寺としても有名である。さらに平成 12 年に蓮如上人御一代絵巻のステンドグラスを作成した。そのステンドグラスは、浄恩寺の HP で見ることができる。

(参考：<http://www.jyouon.net/>)



資料⑭

(3) 授業のまとめ

実際の授業は教師がインターネットの地図機能（グーグルマップを使用）を使って、大画面を全員で共有する内容となったが、生徒自身が自由に操作しながら新しい発見や疑問を見つける授業展開としても効果があるものと感じた。

実際には歩いて 20 分くらいの距離ではあるが、生徒の実態から 1 コマの授業内では体力的に無理であるためインターネットの各種地図機能や時系列地形図閲覧サイト「今昔マップ on the web」を使ったことで病弱虚弱生徒への教育効果が見られた。

また、札幌市の郷土史においても、屯田兵の歴史がある琴似地区の記録が多く残っており、山の

手地区がそれに含まれてしまった形で地域へ特化した郷土の歴史が少なかったが、地元の相沢季男氏が個人的に記録に残し、「山の手のおいたち」を発行したことは、札幌市にとって貴重な功績であった。札幌地理サークルの巡検にも参加していただき、最後に山の手養護学校の視聴覚室でつじ山を眺めながらお話を聞いたことは大変有意義なことだった。

この授業を受けた後に、高等部生徒で外へ出ることが可能な生徒が実際に水上通りを歩き、授業の内容を再確認して、最後に浄恩寺に寄ってステンドグラスを見せてもらってきたことを報告しに来てくれた。教室の授業で学んだことがその場だけで完結してしまうのではなく、自ら行動してみるということは、本来の授業の目的であるので、よい成果があったものと思われる。

新学習指導要領の必履修科目「地理総合」に対して地域研究・巡検を盛り込んだ授業が提案でき、また、「総合的な学習の時間」や高等学校に新設される「総合的な探究の時間」においても活用することの可能性を感じている。

（参考資料）

- 1997 北海道新聞社 札幌市教育委員会 さっぽろ文庫第1巻 「札幌の地名考」
- 2006 札幌市立山の手養護学校 創立50周年記念誌 （資料②）
- 2010 自費出版 相沢季男 山の手のおいたち （資料③）
- 2012 亜璃西社 堀 淳一 地図の中の札幌・街の歴史を読み解く
- 2013 埼玉大学 谷 謙二 時系列地形図閲覧サイト「今昔マップ」
(<http://ktgis.net/kjmapw/>) （資料⑩）
- 2017 浄土真宗東本願寺派建法山浄恩寺 Jyouon Net (<http://www.jyouon.net/>)
- 2013 地理院地図 出典：国土地理院ウェブサイト (<https://maps.gsi.go.jp/>)
(資料④、資料⑥、資料⑦、資料⑬)
- 1916 (大正15年) 2万5千分の1地形図 （資料⑤）
- 2016 岡積義雄撮影 （資料①、資料⑧、資料⑨、資料⑪、資料⑫、資料⑭）